

行歯会だより 第160号

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

令和3年3月号



1 災害歯科保健医療チーム養成支援事業の概要

東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 顎顔面外科学 助教

日本災害時公衆衛生歯科研究会（災害歯研，DPHD） 世話人

中久木 康一

2 災害歯科保健医療チーム養成支援事業・災害歯科保健医療アドバンス研修会に参加して

静岡県健康福祉部健康局健康増進課 主査

種村 崇

3 名簿担当理事のつぶやき

多摩立川保健所 歯科保健担当課長

柳澤 智仁

4 小規模だからできる楽しい歯科保健を語り合う

～オンラインで地元を超えてつながろう同じ仲間をみつけつながるプロジェクト～

行歯会会長

長 優子

5 令和2年度第2回行歯会理事会議事録

1 災害歯科保健医療チーム養成支援事業の概要

東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 顎顔面外科学

日本災害時公衆衛生歯科研究会（災害歯研，DPHD） 世話人

助教 中久木康一

今月にて、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から、10 年を迎える。

東日本大震災においては、広域での対応、また、多組織多職種での対応が必要となった。

この経験から、各組織においてコーディネート体制づくりが進められてきた。

歯科においても、平成 27 年度より歯科 10 団体を包括する災害歯科保健医療連絡協議会（事務局：（公社）日本歯科医師会）が発足し（図 1）、平成 29 年度には行動指針を制定し、統一した災害時体制の構築が進められてきた。

図 1 ・ 災害歯科保健医療連絡協議会概要

災害歯科保健医療連絡協議会 ※平成27年4月設置	
<p><目的></p> <p>大規模震災後の避難所・仮設住宅、被災者等への歯科保健医療の提供は、（急性期から慢性期に）に至るまで、様々な歯科関係職種の継続的な支援が必要である。</p> <p>そのため、日本歯科医師会主導の下、歯科関係団体同士の連携や災害対応に関する認識の共通化を図るとともに、各歯科団体独自の行動計画等の情報集約や共有を促し、有事に際して国や都道府県との連携調整を行い、被災地の歯科医療救護や被災者の歯科支援活動を迅速に効率よく行うべく、協議していく。</p>	<p><参画団体></p> <ol style="list-style-type: none">①日本歯科医師会②日本歯科医学会③日本私立歯科大学協会④国立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議⑤全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議⑥日本病院歯科口腔外科協議会⑦日本歯科衛生士会⑧日本歯科技工士会⑨全国行政歯科技術職連絡会⑩日本歯科商工協会 <p>※オブザーバー：内閣府、厚生労働省、日本医師会（JMAT関係者）、防衛省ほか</p>

1 厚生労働省災害医療チーム等養成支援事業による災害歯科保健医療体制研修会

平成 30 年度より、厚生労働省災害医療チーム等養成支援事業（補助事業）としての災害歯科保健医療体制研修会（以下、体制研修会）（2 日間）を開催している（図 2）。平成 30 年度には東日本・西日本に分けての 2 回、令和元年度には東日本・中日本・西日本に分けての 3 回開催し、合計 301 名の歯科専門職が修了者として登録され、ホームページに公開されている。この研修会においては主に、被災市町村における災害歯科支援活動の実務が遂行できる人材、Japan Dental Alliance

Team〔以下、JDAT（仮称）災害歯科派遣チーム〕のメンバーとなるべき歯科専門職の養成が目標とされている。

全国行政歯科技術職連絡会（以下、行歯会）からは、森谷俊樹先生、柳澤智仁先生が講義の講師を務めており、お二人に加えて楠田美佳先生、秋野憲一先生、田村光平先生、本田和枝先生、原田志織先生が、グループ演習の補助として参加して下さった（図2・写真1）。

令和2年度には、同様に体制研修会を3回開催するとともに、災害歯科保健医療アドバンス研修会（以下、アドバンス研修会）と称した研修会を開催することとなった。この目的は、地区での災害歯科コーディネーターの養成にあるが、同時に、各地域や団体・組織において、災害歯科保健医療に関する研修会を開催し、地域における体制や連携を構築していく中心的な役割を担っていく人材の育成も含めた。

図2・災害歯科保健医療体制研修会プログラム概要

災害歯科保健医療体制研修会 2019年度 （2018年度～，厚生労働省補助金 災害医療チーム等養成支援事業）

1日目	
スケジュール	研修科目
10:30～10:35 ※5分	開会・挨拶
10:35～10:45 ※10分	研修の目的(オリエンテーション)
10:45～11:25 ※40分	災害歯科医療概論
11:25～11:55 ※30分	歯科災害派遣チームの実現に向けて
11:55～12:25 ※30分	災害時における歯科医師会の対応
12:25～13:30 ※65分	<休憩>
13:30～14:30 ※60分	【ディスカッション】国における災害対応 厚生労働省健康局健康課地域保健室長／厚生労働省医政局地域医療計画課災害時医師等派遣調整専門官／内閣府政策統括官(防災担当)付／防衛相統合幕僚監部首席後方補給官付／警察庁刑事局捜査第一課検視指導室／海上保安庁警備救援部刑事課刑事企画指導官 ※事前研修のおさらいを含め、災害対応に関するディスカッション
14:30～14:40 ※10分	<休憩>
14:40～16:10 ※90分	【講義・ロールプレイ】 心理社会的サポート
16:10～16:20 ※10分	<休憩>
16:20～16:50 ※30分	JMAT等との連携
16:50～17:20 ※30分	災害時における身元確認体制との連携
17:20	1日目閉会

2日目	
スケジュール	研修科目
9:30～12:40 ※180分 (途中休憩10分)	【講義・演習】 被災市町村におけるコーディネータ
12:40～13:30 ※50分	<休憩>
13:30～16:40 ※180分 (途中休憩10分)	【講義・演習】 都道府県におけるコーディネータ
16:40～16:55 ※15分	総評、質疑
16:55	閉会・修了証交付

主催：日本歯科医師会
（災害歯科保健医療連絡協議会 事務局）

写真 1・災害歯科保健医療体制研修会におけるグループワーク



2 COVID-19 に振り回された令和 2 年度の災害歯科保健医療体制研修会

アドバンス研修会では、各都道府県・組織単位にての災害体制のマネジメントや研修の計画立案運営などができる人材の育成を目指すことを目的に、体制研修会を終えた人を対象として、実際の研修会でのサブ演習補助者を務めていただくこととした。このため、アドバンス研修会は、3回の体制研修会（11月14-15日・1月16-17日・1月30-31日）に先駆けて10月18日（日）に開催することとなった。ゆくゆくは、サブ演習補助者を終えた方の中から、次にメイン演習補助者を務めていただける方が出てきて、各県もしくは地域における研修を主導していくことが期待された。

しかし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、集合型の研修会は、特にグループ演習を含めた研修会であるため、体制研修会もアドバンス研修会も、オンライン開催を余儀なくされた。

(1) 体制研修会

体制研修会においては、1日目の座学は全てオンライン講義とし、2日目のグループ演習はワークの数を減らし、グループ全体で画面を共有しながら、事前にメールに添付して印刷を求めた事前資料を手元で見ながらの、グループ討論を中心とした。このため各グループに、司会進行と記録共有との、2名の演習補助者が必要とされた。

参加者からは、「1日目にまる一日講義聴講のみは辛い」という意見が複数寄せられたものの、令和2年度はもともと実地開催を予定していたものをオンラインに切り替えたもので、致し方ないことを了解していただくしかなかった。

2日目のグループ演習は、グループ数に応じて演習補助者が必要となるが、実地開催では各グループ1名を配置していたが、オンライン開催では各グループに2名が必要とされた。当初は、先行するアドバンス研修会の修了者が実地開催時のサブ演習補助者として参加する予定だったが、体制研修会のオンライン開催にあたってはリアルタイムで個別にフォローすることは難しく、これとは別に演習補助者を増やし、オンラインでの打ち合わせ（1回2時間半程度）を4回行い（9月30日、10月7日、11月5日、11月13日）、ようやく開催にこぎつけた。その後も開催前後にオンラインでの打ち合わせを行いながらの開催となり、講師・演習補助者の負担はかなり大きなものとなった。歯科において災害歯科保健医療を生業としている人は皆無であり、臨床に従事する者にとって土曜日は一般に業務日であることを考えると、年間に複数の研修会において演習補助に入っただけの方々の確保のために、演習は日曜か祝日に組むこととなる事情は、病院勤務者などが中心となって災害対応研修を行っている保健医療系の多職種との違いと言えよう。

(2) アドバンス研修会

アドバンス研修会においては、実際に演習の作成方法を、ひとり1台のPCを持ち込ませて研修したり、グループワークのファシリテーターを相互演習したり、ということも想定に入れていたが、講義及びグループディスカッションに切り替えた（図4）。更に、体制研修会がオンライン開催となった場合は、サブ演習補助者の実習ができないため、別途、集合型の研修を年度末に行う予定と追加したが、これもCOVID-19の再度の蔓延により、次年度以降に延期となった。

図4・災害歯科保健医療アドバンス研修会プログラム概要

災害歯科保健医療アドバンス研修会

(2020年度, 厚生労働省補助金 災害医療チーム等養成支援事業)

スケジュール		研修科目
9:30- 9:35	※5分	開会・挨拶
9:35- 9:50	※15分	研修の目的とゴール
9:50-10:30	※40分	経験した災害支援の中で、助けてもらった事務的業務の整理
10:30-11:00	※30分	行政における災害時体制と歯科医療者のロジスティクスの実際
11:00-12:00	※60分	災害医療ロジスティクス概論
12:00-13:00	※60分	〈休憩〉
13:00-13:15	※15分	現場で必要だった多職種連携のためのノンテクニカルスキル
13:15-13:35	※20分	クリティカルシンキング概論
13:35-13:55	※20分	ファシリテーション概論
13:55-14:50	※55分	【計画立案】クリティカルシンキングを活用して課題を整理し活動方針を立てよう!
14:50-15:10	※20分	〈休憩〉
15:10-15:40	※30分	リスクマネジメントとリスクコミュニケーション概論
15:40-15:50	※10分	災害歯科研修における連携づくりの事例
15:50-16:40	※50分	【ディスカッション】それぞれの地区・組織における、多職種との連携における課題
16:40-16:55	※15分	質疑
16:55-17:00	※5分	事務連絡・閉会

アドバンス研修会の参加条件は「体制研修会を終えていること」と規定したにもかかわらず、これを満たさない参加者が参加していた（提出された参加者名簿より、選定元組織に対して指摘したものの、改善されなかった）。このため、オンライングループ討論においては、基礎的知識や理念の共有が無いままで全く違う論調を展開した参加者がおり、運営側が求めている内容の質が担保できなかった。これに関しては、次年度以降、更に厳しく規定を求めていくしかないと考えている。

3 来年度以降の災害歯科保健医療研修会の展開

結果として令和2年度は、COVID-19の影響を受けてオンライン開催を余儀なくされ、規模も内容も縮小せざるを得ず、修了者数も減じた。また、デジタル環境が整わない、もしくは、操作に不慣れた参加者もおり、直接顔を合わせて話し合うほどの関係性の構築もできず、学習到達度のばらつきも大きかった。

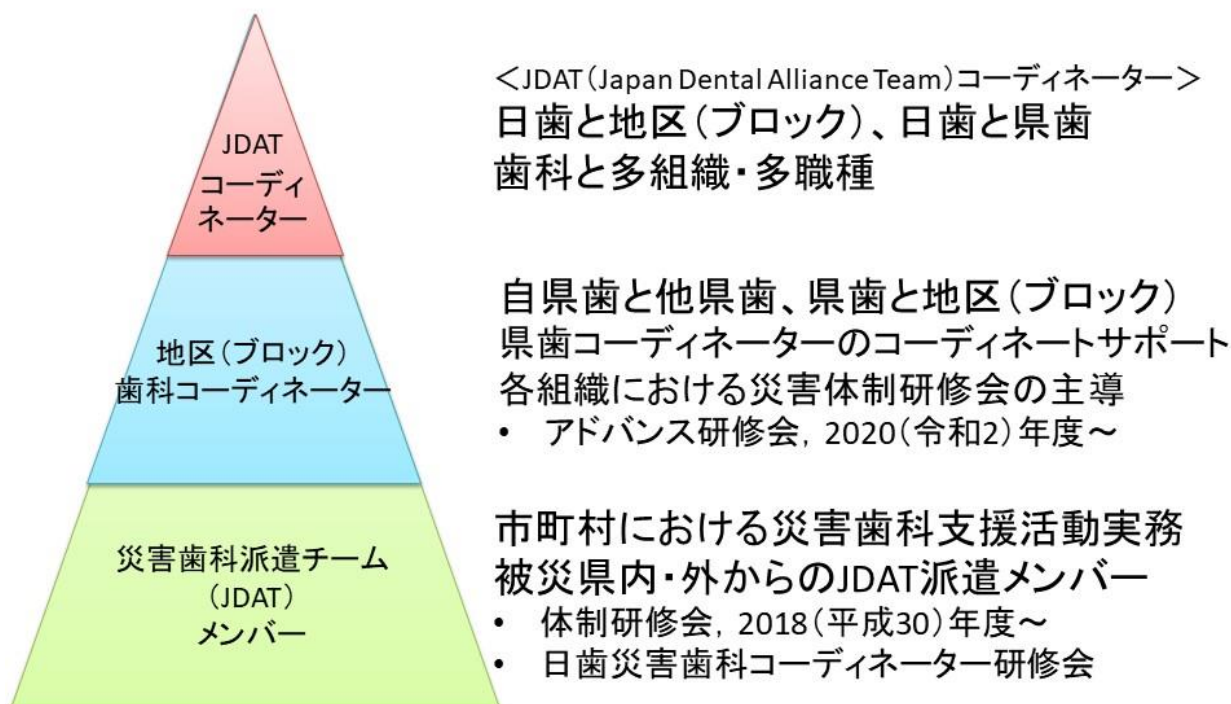
一方で、移動時間や経費が不要となり、また、講演映像は今後も教材として転用可能であり、利点も少なくなかった。

令和3年度以降は、オンラインの利点を活かしながら修正を加えて、課題を解決しながら発展させていきたいとは考えているが、突き詰めれば逆に、実地での研修の必要性も見えてきているように思える。

今後、JDATの派遣体制づくりを進めるにあたり、災害歯科保健医療にかかわる人材を下記の3層で研修し、育成していくという方向性で考えている(図5)。この中で、行政歯科職の果たす役割は大きく、過去の災害時の歯科のマネジメントにおいて、行歯会メーリングリストでのネットワークもその一助となった。今後とも、行歯会の皆様の積極的な参画と協力をお願いしたい。また、日本災害時公衆衛生研究会(災害歯研、DPHD)のメーリングリストにも、ぜひご登録いただければ幸いである(<http://jsdphd.umin.jp/>)。

図5・3層構造のコーディネーターと研修体制のイメージ

災害歯科保健医療 研修



2 災害歯科保健医療チーム養成支援事業・災害歯科保健医療アドバンス

研修会に参加して

静岡県健康福祉部健康局健康増進課 主査

種村 崇

皆様、平素より大変お世話になっております。

静岡県の種村でございます。

令和2年10月18日(日)ZOOMによるウェブ形式にて



災害歯科保健医療チーム養成支援事業・アドバンス編の研修会が開催され、全国行政歯科技術職連絡会の推薦枠にて、受講させていただきました。

本研修は、災害歯科保健医療体制研修会受講を前提に、全国を7ブロック（地区）に分けて、そのブロックにおいて災害時に地区歯科コーディネーターとして活動し、国レベルとの繋ぎの役割を果たす。災害時に向けてブロックごとの連携研修を自発的に運営し、事務局機能と支援コーディネーターの双方について学び理解することができる人材の育成を図ることを目的としております。将来的に JDAT が設立された場合には、JDAT コーディネーターの養成を目指しているとのことです。

なお、本受講者は、令和2年度災害歯科保健医療体制研修会に演習補助者として参加することで修了証発行となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度災害歯科保健医療体制研修会がすべてウェブ研修となったため、演習補助者参加ではなく、別研修参加にて補完し、修了証発行となる予定です。

研修の内容は以下の10点

1. 経験した災害支援の中で、助けてもらった事務的業務の整理
2. 行政における災害時体制と、歯科医療者のロジスティクスの実際
3. 災害ロジスティクス概論
4. リスクマネジメントとリスクコミュニケーション概論
5. クリティカルシンキング概論
6. 【計画立案】クリティカルシンキングを活用して課題を整理し活動方針を立てよう！
7. 現場で必要とされる連携のためのノンテクニカルスキル
8. ファシリテーション概論
9. 災害歯科研修における連携づくりの事例

10. 【ディスカッション】それぞれの地区・組織における、多職種との連携における課題

講師は皆様御馴染みの、行歯会理事の柳澤氏、東京医科歯科大学の中久木先生、福岡県歯科医師会の太田先生。災害ロジスティック概論は新潟大学医学部災害医療教育センター特任講師の和泉先生にご講演いただきました。

受講を通じての私見

これまでの災害歯科保健医療体制研修会は都道府県内の体制作り等、地域のキーマンを養成することがメインでいたが、今回の研修は広域の連携体制をいかに構築していくことをメインとした研修会でした。

地域での部分最適も重要ですが、大規模災害を想定した場合は、全体最適も図っていく必要があると感じました。外付けのマウスやキーボードはwindowsでもmacでも対応できるように、インターフェイスが統一されています。支援チームも、地域の機能を補完するため、求められた支援に対し、機能を発揮することが期待されております。そのためにはルールが明確で、統一されていることが必要条件です。今後、国レベルで広域支援のあり方に対する議論が進んでいくことを期待しております。

3 名簿担当理事のつぶやき

多摩立川保健所 歯科保健担当課長

柳澤 智仁

長執行部が誕生して早8年。様々な取り組みが行われ、行歯会だより等で報告がなされている中で、あまり対外的に発信をしてこなかった会員名簿とMLの整備・管理体制の構築について総括的な記録を残そうかと思います。長執行部における重要プロジェクトの成果(勝手にそう思っていますが)の一つとして、本件、すなわち簡便かつ正確に会員名簿・MLの管理が行えるようスキームが生まれ、整備・管理体制が構築されたことがあげられるかと思います。ただこれを実現するには各都道府県世話役の皆様の御尽力が不可欠であり、御協力いただいた皆様にはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

平成25年9月行歯会だより第91号に行歯会理事懇談会記録が掲載され、以下の一文があります。「ヤフーMLから科学院MLへ移行しエラーはほとんどない。名簿と一致しないアドレスが250名程いたが、退職者やアドレスの再取得等が原因と考えられるため、アドレスは全削除した。現在の正式会員数632名」。使用していたヤフーMLが平成26年にサービス停止予定という背景もあり、事務局長の安藤先生(当時)の御尽力によって、科学院MLへ移行したという、ある種歴史的な記録の一部です。さらりと、名簿と不一致のアドレスが250と書かれていますが、裏を返すと、

いったいどこのどなたに配信されているのか追跡不能なアドレスが 250 名分あったという状況でした。科学院 ML へ移行した際、こうしたアドレスは一扫したのですが、最近メールが届かないと、既に退会された非会員の方から苦情のお電話を何本かいただいたのも良い思い出です。

尤も、これには様々な背景があり、名簿と ML 登録者のリストの突合が極めて困難であったこと、科学院 ML とは異なりヤフー ML における諸々の作業が煩雑であったこと等が整理の妨げであったことがあげられるかと思料しております。

科学院 ML への移行も、全てが順風満帆に進んだわけではなく、名簿ベースで科学院 ML への登録を行ったのですが、名簿の誤記等で不具合が生じ、不達事例が多発し、エラーメッセージが安藤先生のところへ大量に配信されるということもありました。各都道府県世話役のひとかたならぬ御協力もあり、地道な修正を繰り返した結果、こうしたエラーはほぼなくなり、会員数が 800 名を突破した現在でも一部テクニカルかつ原因不明なエラー報告を年に数回耳にするくらいになりましたが、移行当初は科学院のサーバーに相当負荷をかけたのではないかと、思い出すと冷や汗が出てきます。

一方で、諸先輩方からは心臓に毛が生えているのだの、打たれたら逆に徹底して打返すのだの、要は無駄なメンタルの強さを時に褒められ、大半呆れられという小職ではありますが、正直、本業務を拝命した当初は未熟さ故、何度か投げ出してしまおうと思ったこともありました。更新した名簿を配信すると、誤記を発見した御本人から直接御連絡をいただき、直ちに訂正することを厳命されるとともに、個人情報を取り扱う責任がないのではないかと強い叱責をいただくということが多々ありました。御指摘ごもっともであるが故にぐうの音も出ず、だからこそ凹んだわけですが、振り返ると自身の未熟さを痛感し、赤面する次第です。今では小職がへこたれそうになることもあったという笑い話ですし、上記の通り状況が改善された昨今では想像すらできない世界ではありますが、グータラな小職にしてはよく頑張ったものだと思いきや、珍しく自分で自分を褒めると同時に諸々の成長を助けていただいた方々に感謝申し上げます。

行歯会において活発な意見交換や個々の連絡において、名簿や ML は大きな役割を果たしているものと思料致します(そうであってほしいという願いも込めて)。基礎工事は終了したものと自負しておりますので、いずれ近い将来、有能な方に有効な利活用を含めた維持・展開を模索していただければと思う次第です。

4 【行歯会新企画報告】

「小規模だからできる楽しい歯科保健」を語り合う

～オンラインで地元を超えてつながろう 同じ仲間を見つけつなげるプロジェクト～

行歯会会長 長優子

「小規模だからできる楽しい歯科保健」をテーマに掲げ、令和3年2月16日（火）に開催したオンラインの集いについてご報告いたします。

昨年10月、行歯会主催の公衆衛生学会自由集会（※1）は、初のオンライン開催となりました。80人近い参加者の方々に事後アンケートを実施し、行歯会としてオンラインを活用した企画アイデアを集めました。その中に「小さなまちの歯科衛生士」とつながりたいという意見があり、行歯会の新企画として採用することになりました。

（※1）行歯会だより156号「第79回日本公衆衛生学会・自由集会参加報告」参照

https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/contents/No156_202011.pdf

開催に向けて、まず所属する自治体の人口規模別に行歯会会員を分類してみたところ、人口5万人以下の市町村歯科衛生士が60名程いることがわかりました。対象者の中から、企画段階から参加してもらえる方を探し、新潟県胎内市の高橋さん、三重県紀宝町の竹田さんにご賛同いただき、アイデアを出し合ってチラシを作成し、当日の話題提供として事例報告を準備していただきました。どのくらいの方が希望されるかは未知数でしたが、結果的に12名の方が申し込み、語り合うには程良い人数で開催することができました。

The poster features a red header with the title 「小規模だからできる 楽しい歯科保健」 and the subtitle 「～オンラインで地元を超えてつながろう 同じ仲間を見つけつなげるプロジェクト～」. Below the text are four cartoon tooth characters. The main event details are: 令和3年2月16日(火) 19:00~21:00, Online form (Zoom), Target: Municipalities with population under 50,000 and active dental association members, Content: Case reports and information exchange. A map of Japan highlights the participating regions. At the bottom, it says '申し込みは「こくちーず」' and provides a QR code and a URL: <https://kokuchee.com/event/index/907105/>.

当日は開始前から和やかな雰囲気に入れられ、3人の事例報告にその都度、質問や共感したこと、参加者の悩んでいることを語り合いました。

今回、印象に残ったのは、人口規模による業務内容に多少の差はありますが、目指すところや課題には共通点があるということです。

一人（少数）職種であることから、専門性を生かすことや、やりたいことが思うようにいかない、認められない、といった歯がゆさは人口規模に関わらず誰もが抱えています。しかし、行政の歯科衛生士として最終的に目指すのは、歯・口腔の健康だけに留まらず 『住民が幸せに暮らせるまちづくり』であることを改めて考えるきっかけになりました。

事後アンケートでは継続開催を望む声が多く寄せられました。このような企画を行歯会として継続し助けられたら良いと感じました。

次号では、発案者である兵庫県香美町の西谷さんに、記事を執筆していただきます。楽しみにしてください！



5 令和2年度第2回行歯会理事会議事

今年度、Zoomによるオンライン会議という形で、行歯会理事会の開催が実現しました。

今期最後の理事会となりましたが、今後の行歯会活動について意見交換を行うことができました。

日時：令和3年3月4日（木）19時から21時 Zoomによるオンライン会議

出席者（25名）

会長 長

副会長 森木、山田、高澤

事務担当理事 田村、柳澤、芦田、林、加藤、吉野、白井、森谷

ブロック理事 佐々木、久米田、清田、中山、岸井、渡辺、小池田、芝田、堀江、黒田

事務局 福田、安藤、田野

欠席者（7名）

事務担当理事 原田、石田

ブロック理事 高橋、金森、沖野、柳本、比良

【報告】

1. 災害歯科保健医療連絡協議会・WG 報告

・災害歯科保健医療連絡協議会は行歯会としてH27年から参画し6年目となる。会長が年3回の協議会出席、柳澤理事がWGに出席している。災害歯科保健医療体制研修会では、

行歯会として講師、演習補助者派遣の役割を担っており、協議会の中での位置付けは大きい。

- ・災害歯科保健医療体制研修会は、今年度は基礎編に加えアドバンス研修会が実施された。

- ・JDAT (Japan Dental Alliance Team) の名称、実際の活動について継続審議する。

【議題】

1. 行歯会だよりについて

(1) 連載記事

- ・2月16日に実施した「小規模だからできる楽しい歯科保健」Zoomミーティングを連載記事にする。

(2) 編集担当について

- ・今後は編集担当の他に、企画担当も決めると良いのではないか。
- ・歯科医師と歯科衛生士で主担当とサブ担当を半年ずつ、順にずらして引き継ぎながら担当。執行部が変わる時期のため、次期編集担当は新理事が検討することとする。

2. 世話役アンケート「新型コロナウイルス感染症対策でのオンラインの活用について」結果報告

- ・コロナ禍により、オンラインの活用状況は予想通りの回答。所属、地域別等の集計はしていないが大差はない。回答率は高い。

- ・行歯会だよりに結果を掲載する。

3. 行歯会企画「小さな・・・zoomミーティング報告」関連について

- ・公衆衛生学会自由集会（行歯会主催）の事後アンケートから今回の企画、実施に至った。リクエストが具体的で、短期間に企画ができた。

- ・対象を人口5万人以下の市町村歯科衛生士としたが、対象にならない市町村歯科衛生士からの希望が数件あり、興味があることがわかった。今回対象外の人にも参加機会があるとよい。

- ・事後アンケート結果は好評で、継続希望も多数。どのように継続するかが課題。

- ・新しい人達が良い形でつながり、他の対象での企画にも可能性はある。

4. 次期執行部に関すること

- ・4年任期、今期執行部は令和3年3月で任期終了。4年間の最後がコロナ禍となったが、オンラインで理事会が実現したのは良かった。遠方の理事が参加できないことから「理事懇談会」としてきたが、オンラインの活用で距離的な壁が無くなり、正式な理事会として開催できた。

5. 次期行歯会活動に関する意見交換

- ・理事会のオンライン開催が可能となったので、ブロック単位、世話役の会議開催も可能では。

- ・オンラインで画面を通じてでも出会うことは大事。テーマを決め、繰り返し行うことで顔なじみになる。

- ・世話役自体は都道府県の人が多いので、市町村の人にもう少し入ってもらえると交流できてよいか。

- ・歯科衛生士は市町村所属が多くブロック内での交流はない。今後はブロックを意識して、世話役とブロック理事が繋がって、ブロックで交流、情報交換できるとよい。
- ・WEBでのメリット、集まったメリットもある。会場とWEBのハイブリッドしたような形も良いのでは。
- ・会員がブロック内の隣の県の人とつながる等、会員同士がオンラインで繋がる場があるとよい。
- ・政令市の顔合わせや、教育委員会に所属しているため、学校分野でもつながれると良い。
- ・地域毎のテーマもよいが、全国的なテーマを決めてブロックで協議し持ち寄るのもよい。
- ・全国的なテーマとしては、歯科医師会との関係、行政と歯科医師会のパートナー関係等、興味がある。
- ・行歯会全体としては、新入会員、入職から3年目位の人へのアプローチ、しっかり繋がる必要があると感じる。WEBで若い世代との交流や会議、若い人と世話役の交流等を企画し、若い人が行歯会に根を生やすと良い。
- ・オンライン化が進んだことで著名な講師による研修会を、県を超えて共同実施も今後やりやすくなるか。

♪ 編集後記 ♪

今月11日で東日本大震災からちょうど10年となりました。故渡辺和子さんの置かれた場所で咲きなさいの中に“いつ、何があるかわからないから、いつも準備しておく”という一節があります。この姿勢を心がけたいと思います。(N)

「備えあれば憂いなし」の語源を調べてみたら、故事成語の1つで書経にある「有備無患」だと分かりました。対義語は、「飢えに臨みて苗を植う」、「渴して井を穿つ」などなど。まさに私自身を示していると感じ、反省しかり・・・(K)

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。